

学校法人広陵学園 広陵高等学校 令和4年度自己評価

1 ミッション（地域社会における自校の使命）

高い志を持ち、自らの夢や目標に向かってチャレンジする生徒を育て、地域社会・国際社会に貢献する有為な人物を育成する。

2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

1. 授業が真剣勝負の学校
2. 明るい笑顔の挨拶が交わされる学校
3. 掃除の行き届いた美しい学校
4. 部活動・学校行事・ボランティア活動に励む活力ある学校

3 目標の設定と評価

学校経営目標						
達成目標	評価指標		令和4年度			令和5年度 目標値
			目標値	実績値	評価	
1 学力の定着と個に応じた進路実現に努める						
「わかる喜び」を実感させる授業展開	授業アンケートによる生徒評価 (生徒の自己評価部分の平均)		84.0 ポイント	82.1 ポイント	B	84.0 ポイント
	ICT機器を活用した授業を行った教員の割合		90.0%	85.6%	B	90.0%
自宅学習時間の確保	「学年+1時間」の実施割合		特進 50% 総進 20%	特進 31% 総進 8%	B	特進 50% 総進 20%
自学自習ソフトを有効活用し基礎学力の向上	模試平均偏差値 (国語・数学・英語)	特進	1年 50.0 2年 50.0 (第3回)	1年 47.0 2年 46.2 (第3回)	B	1年 49.0 2年 48.2 (第3回)
		総進	1年 38.0 2年 39.0 (第3回)	1年 36.7 2年 38.3 (第3回)	B	1年 38.7 2年 40.3 (第3回)
学習意欲の向上	個人面談を充実させる		6回(1年) 6回(2年) 6回(3年)	6回(1年) 6回(2年) 6回(3年)	A	6回(1年) 6回(2年) 6回(3年)
教職員の進路における指導力の向上を目指す	大学入試問題・模試及び進路検討会議の回数		5回	3回	B	5回
大学進学希望者全員で大学入学共通テストの受験を目指す	大学入学共通テスト受験者数		190名	162名	B	180名
個に応じた進路指導を行い進路実績を高める	国公立大現役合格者数 修道大学合格者数 安田大学合格者数 就職希望者の内定率		20名 70名 30名 100%	17名 34名 20名 100%	B	20名 70名 25名 100%
2 基本的生活習慣の確立を図る						
遅刻者を減らす	1日当たり遅刻者数(%)		1.1%	2.1%	C	1.0%
特別指導件数を減らす	特別指導件数		20件	21件	B	10件
転学者・退学者を減らす	転・退学者数(%)		1.1%	1.9%	B	1.0%
いじめを撲滅する	いじめの認知件数		2件	2件	B	0件
美化の徹底	取り組む姿勢・ごみの分別		4.80	4.80	B	4.80
	(生徒対象校内美化アンケート)		4.90	4.90		

3.文武両道をめざした特別活動の活性化に努める					
学校行事の満足度を高める	アンケート満足度（肯定％）	90% 75%	91.6% 75%	B	84% 76%
生徒会各委員会の活動を活発にする	委員会の開催回数	11回	21回	A	12回
部活動への参加率の向上を目指す	部活動への参加率	69.0%	67.5%	B	68%
中国大会・全国大会の出場を目指す	全国大会出場部数	7部	8部	A	8部
	中国大会出場部数	8部	10部		

4.国際理解教育の充実・深化を図る					
海外長期留学特進プログラム参加者数2名を目指す	海外留学特進プログラム参加者数	---	---	評価不可	---
イングリッシュキャンプ参加者数20名を目指す	イングリッシュキャンプ参加者数	---	---	評価不可	20名
サマープログラム参加者数15名以上を目指す	サマープログラム参加者数	---	---	評価不可	---
英語検定試験準2級以上の合格者数	準2級以上合格者数 準1級合格者数 2級合格者数 準2級合格者数	85名 準1：1名 2級：19名 準2：65名	78名 準1：0名 2級：14名 準2：64名	B	85名 準1：1名 2級：19名 準2：65名

5.保護者や地域に開かれた学校づくりに努める					
オープンスクール等の広報活動を充実させる	全体参加生徒の数	2,000名	2,115名	A	1600名
	第1回	700名	638名		
	第2回	500名	366名		
	第3回	400名	465名		
	第4回（令和5年度は予定なし）	400名	546名		
オープンスクールの内容、方法を一層充実させる	参加中学生のアンケートによる満足度	100%	100%	A	100%
ウェブサイトを効果的に活用し情報公開に努める	更新回数	120回	Web：約500回 ブログ：250回	A	約500回
地域の行事や清掃活動、防犯活動等への生徒の積極的参加	参加回数	ESD推進部 5回	ESD推進部 2回	C	10回

4 現状分析と今後の課題

学校経営目標					
達成目標	近年の現状分析と令和5年以降の見通しと課題				
0 全般的な分析					
生徒募集と入学生について	●直近4年間の入学生				
		令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
	男子（前年増減）	320(+45)	275(+8)	267(+13)	254
	女子（前年増減）	218(+20)	198(+32)	166(+1)	165
	計（前年増減）	538(+65)	473(+40)	433(+14)	419
	【分析】 令和5年度は学則定員450人を大きく上回る新入生を迎えた。 多種な要因があると思われるが、内的要因としては次の2点があげられる。 (1) 安佐南区を中心とした、地元地域から一定の信頼を得つつあること。				

	<p>(2) オープンスクールをはじめとした、広報活動が順調に行われていること。 一方で、外部要因としても3点があげられる。</p> <p>(3) 就学支援制度の周知が進んでいること。</p> <p>(4) 公立高校の入試制度が大きく変化したことに対して、私学を希望する受験生が増えた。</p> <p>【今後の見通しや課題】 要因(4)については、情報を集めるとともに注視していく必要がある。短期的には(2)の強化が求められる。</p>
地域別入学者数	<p>【分析】 今年度の安佐南区からの入学生は全体の54.7%で、この4年65%を上回っていたことを考えると減少した。一方で、安佐北区からの入学生は18.2%で、令和2年には6.7%から増加し続けている。これはスクールバスの運行が最大の要因である。</p> <p>【今後の見通しや課題】 安佐南区からの入学生が減少し、安佐南区、安佐北区以外の広島市圏内からの入学生が増加したことは、近辺の公立高校の倍率、他の私学の難易度が要因であると考えられる。安定的に地域からの入学生を確保するために、広報活動を強化することはもちろん、これまで通り、地域活動、部活動などでの結びつきも重視していくことが必要である。</p>
生徒像	<p>【分析】 国公立大学や有名私立大学などのいわゆる難関大学を目指す生徒も入学してくる一方で、硬式野球部、女子硬式野球部をはじめとした部活動を大きな目的として入学してくる生徒が2割近い。公立高校に比較し、入学生の学力の幅も、価値観の幅も大きく、まさに多様性を持った生徒像である。</p> <p>【今後の見通しや課題】 令和4年度入学生から、より多様な進路選択を見据えた、新たなコース選択制度を導入しており、来年度がその完成年度である。導入の目的に沿った授業やホームルーム運営ができていくかを検証しながら進めていくことが重要である。 また、SDG'sの取り組みをより推進し、生徒に互いの多様性を認め、協働する意識を育てていくことも重要である。</p>
進路指導と顧客満足度	<p>【分析】 進路調査(3年第3回)の質問①「広陵高校に入学して良かったか」②「進路先に満足しているか」③「あなたの進学先に保護者は満足しているか」への回答集計は以下の通り。 ①の「とても良かった」「良かった」の合計：94.2% ②の「とても満足」「まあまあ満足」の合計：97.6% ③の「とても満足」「まあまあ満足」の合計：96.1%</p> <p>【今後の見通しや課題】 前述の、新たなコース選択制度の中でも高い満足度を得られることが必要である。そのためにも、年2回行っている授業アンケートの項目の見直しを行う一方、アンケート結果の振り返りと、反映を今以上に意識する必要がある。</p>
1 学力の定着と個に応じた進路実現に努める	
<ul style="list-style-type: none"> ● 「わかる喜び」を実感させる授業展開 ● 自宅学習時間の確保 ● 自学自習ソフトの有効活用 ● 学習意欲の向上 ● 教職員の指導力の向上 ● 大学進学希望者全員で大学入学共通テストの受験を目指す ● 個に応じた進路指導を行い進路実績を高める 	<p>【分析】 おもに国語・数学・英語自学自習ソフト「すらら」を授業でも利用している。 平日の自主学習時間について「学年+1時間」以上と回答した割合が全体的に下がっている。学年別にみると、2学年の割合の下がり方が最も顕著で、文字通り「中だるみ」という状況が心配である。 国公立大学合格者に関しては、健闘したと言える。特にⅡ類からの総合・推薦型の合格が目立った。コロナ前に戻っている状況で、県外への進学意識が高まりつつあると見える。</p> <p>【今後の見通しや課題】 ICT教育推進委員会と連携し、全教員がICT機器を発展的な活用ができるようにする。アンケートの質問の仕方も工夫が必要であるものの、学習時間確保の仕掛けを行う必要がある。 毎年変化していく入試制度や就活戦線に関する情報を積極的に全体に提供し、また直接研修する機会を設ける。 高校入学後、あるいは学年が進むと学習内容の難易度の急激な高まりについていけなくな</p>

	り、成績不振に陥るといふ例が散見される。担任と教科担当者の連絡をさらに密にし、個々の生徒への対策を探る試みが必要と考える。
2 基本的生活習慣の確立を図る	
<ul style="list-style-type: none"> ● 遅刻者を減らす ● 特別指導件数を減らす ● 転学者・退学者を減らす ● いじめを撲滅する ● 美化の徹底 	<p>【分析】 コロナによる出校停止制度が長く続き、一部に「登校する」ことの価値観が変化したことは否めない。それと関連はないと思われるが、特定の生徒の安易な遅刻が目立つ傾向にある。</p> <p>令和4年度から授業時間以外のスマホ使用が許可された。休憩時間にスマホを使うことにより落ち着いて過ごしているように思われる。その反面、成長期におけるスマホの扱い、スマホの弊害については粘り強く指導していく必要を感じている。</p> <p>転・退学の理由のほとんどが不登校だと言っていい状況である。コロナの影響で、人間関係が希薄になったと面もあるが、コロナ以後もこの傾向は続くと考えられる。</p> <p>学年が上がると、清掃に対する意識の向上がみられる。ゴミの分別意識は高まっており、分別も出来るようになってきた。</p> <p>【今後の見通しや課題】 朝の登校指導および副担任を中心とした廊下での呼びかけを行い、余裕を持った行動をとる意識づけを行う。時間を守る意義をしっかりと生徒に伝え、担任と連携して保護者の協力体制を構築していくことが大切だと思われる。</p> <p>情報モラル教育や講習会を開くことで問題に対する意識付けを行い、人間関係や SNS 関連の特別指導の件数を減らす。また、問題の早期発見・早期対応を目指した組織づくりを行う。</p> <p>転・退学の問題に限らず、学年会組織を柱とし、スクールカウンセラー、保健部、教科担当等との連携を密にしながら、複数教員で個々の生徒に対応する組織的な支援体制をより強化することが必要である。</p> <p>今まで通り、年間2回のいじめアンケートを実施し、いじめ防止委員会を中心とした組織的な支援体制を構築していく。校内巡回を積極的に行い、生徒へ目配りを行っていく。</p> <p>美化委員による清掃点検を行い清掃の徹底をはかる。また、年3回行う全校生徒対象のアンケートを継続実施することにより、生徒の意識を高める。</p>
3.文武両道をめざした特別活動の活性化に努める	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校行事の満足度を高める ● 生徒会各委員会の活動を活発にする ● 部活動への参加率の向上を目指す ● 中国大会・全国大会の出場を目指す 	<p>【分析】 コロナの影響もあるかもしれないが、部活動加入率の減少傾向が見受けられる。1、2年生の加入率が減少し続けている原因の究明をしていく必要がある。</p> <p>男子硬式野球部、女子硬式野球部、柔道部(女子)、テニス部(女子)、ボクシング部、体操競技部、少林寺拳法部、ダンス部が全国大会出場を果たした。</p> <p>【今後の見通しや課題】 各行事終了後にアンケートを実施し、生徒の思いやアイデアを反映させていく。</p> <p>Zoom 配信でおこなっていた行事を講堂での実施に移行していく。</p> <p>部活動紹介動画を作成し、新入生に各部の魅力をアピールする。また、オープンスクールにおいて、関係各所と連携し、部活動紹介の内容に工夫をする。</p> <p>各部活動において競技力向上に繋がる手立てを行う。また、可能なサポートを適宜行う。</p>
4.国際理解教育の充実・深化を図る	
<ul style="list-style-type: none"> ● 海外長期留学特進プログラム参加者数2名を目指す ● イングリッシュキャンプ参加者数20名を目指す ● サマープログラム参加者数15名以上を目指す ● 英語検定試験準2級 	<p>【分析】 海外長期留学特進プログラム参加、サマープログラム参加、イングリッシュキャンプ参加は新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった。</p> <p>前年度に引き続き準会場という形で本校での英検受験が実施できたため、受験者数の減少はほとんどなかった。しかし、「合格率の向上」が見られなかった。</p> <p>【今後の見通しや課題】 SEA プログラムや長期特進プログラム、イングリッシュキャンプの令和6年度再開に向けて準備を進める。その他、国内外の交流プログラムを積極的に案内する。</p> <p>今年度も準会場という形で本校での英検受験が実施できる。合格率の向上に重きを置いて取り組んでいきたい。特に準1級を受験する生徒がいないため、2級合格した生徒に準1</p>

以上の合格者数	級の受験を促していく。
5.保護者や地域に開かれた学校づくりに努める	
<ul style="list-style-type: none"> ● オープンスクール等の広報活動を充実させる ● ホームページを効果的に活用し、保護者や地域社会に対して、積極的かつ迅速に情報を提供する。 ● 地域の行事や清掃活動、防犯活動等への生徒の積極的参加 	<p>【分析】 オープンスクールはコロナ禍にもかかわらず、順調であったと言える。参加者のアンケートも否定的な記述は見受けられない。参加者が受験まで結びつかないケースもあるが、本校への理解には大きな役割を果たしているだけでなく、近隣の中学から進路指導に役立っているとの感謝の声もある。 直近4年間の入学生についてはコロナの影響で、地域の行事が中止されているのが現状である。</p> <p>【今後の見通しや課題】 令和5年度のオープンスクールはコロナもひと段落したことから、3回開催の予定である。ホームページ、ポスター等だけでなく、定期的な中学校訪問及び塾訪問により、オープンスクールへの参加斡旋協力をお願いしていく。 また、今年度から申し込み方法が変わるため、申し込みから参加までの手順をスムーズに行えるように、ノウハウの蓄積や、関係者の連絡を密にすることを重点的に図っていく必要がある。 学校の広報活動としてWeb Siteは重要な役割を担っている。更新回数のみならず内容を充実させていくことが重要であると考えている。 ESD推進部と生徒指導部で連携し、案内される地域の行事やボランティア活動に積極的に参加していく。また、各学年の年1回の地域清掃を引き続き行う。</p>